

プログラムは3500部作成し、参加校および県内の各高等学校、県庁、市役所などをはじめ、全国の寮歌祭関係者にも配布しております。

御礼の辞

今年六月十五日（日）に、札幌に全国各地の同窓会が集まる「北大同窓会エルム会」の定期総会に出席してきました。目的は、地方の同窓会が疲弊、消滅しているのを助けてくれと応援を請うためです。これまで三十三年間「北大同窓会佐賀県支部」として活動してきましたが、「佐賀県青春寮歌祭」に応援に来ていただいていた福岡県や大分県をはじめ、九州各県の北大同窓会がすべて消滅しており、中国、四国など関西圏の同窓会も半減しているからです。

北大は来年で創立百五十周年を迎えます。札幌農学校、クラーク先生から始まった北大であり、全国各地から学生が集まる憧れの大学です。その同窓会に、どうして卒業生が集まらないのか？同窓会の在り方そのものを考え直さねば、札幌から遠く離れた同窓会は近々、絶滅して行くでしょう。

同窓会に首を突っ込んだらいろいろと役をさせられる、同窓生と飲んでもな一、異業種交流をするだけの人材もないしな一とか若い人に至っては共働きが多く、家事、育児で忙しいとか、そもそも論として北大卒の看板を背負う必要はないとか・・・・。

三十年ほどまえには官官接待や、談合事件などがあり、綱紀粛正・コンプライアンス遵守が叫ばれ、同窓会活動も自粛を求められました。二人以上で徒党を組むな、酒を飲んではいけない、と言われ、同窓会活動もやり玉にあげられました。

十数年まえからは、個人情報保護法の名の下で、名簿作成への規制が掛かり、新しい卒業生の把握も難しくなり、新人の発掘が難しくなりました。同窓会員は高齢化をたどる一方です。

昨年十一月二四日（日）に東京のホテルで開催された「第六四回日本寮歌祭」に参加してきました。旧制高校卒の方々がご健在の頃は、五五校、約四百五十名が参加されていきました。昨年は新制大学が旧制高校の寮歌を継承するという形で、六十校、二百七十名の参加でしたが、旧制高校の方は四名でした。寮歌が文化庁所管の日本遺産に認定されるべく活動されています。寮歌は学校・教育と大いに関係しますが、誰が歌っているのか、誰が歌い継ぐのかがネックとなっています。寮歌は「青年の万葉」とも呼ばれ、二三〇〇曲にも上り、人づくりにも役立っていることを示せたらと思います。

私は、健康寿命の男子七二、七歳を超えた途端、六月末に原因不明の大腸炎に掛かり、二週間も下痢が続き、体重も五 kg 減りました。今年は早々と梅雨が明け、連日の猛暑、酷暑にもやられ、よろよろしておりました。しかし、「佐賀県青春寮歌祭」の火を消すわけにはいかないと、十一月十五日（土）開催へ向けての準備に入りました。八月に入り、東京の伝統校二校の欠場の連絡が入りました。若い人がなかなか参加せず、高齢化しており、ステージ上で披露できないとのことでした。

二校減ったことで事務局はがっかりしておりましたが、「沖縄寮歌・大学の歌祭り」より、五〇回を記念して編集された「オキナワグラフ」という写真集が送られてきました。内容を見てびっくり、出場校の寮歌・校歌のほかにも沖縄の琉球時代から続く民謡や踊りも披露されており、沖縄県民と一体となった歌祭りであることを知りました。発起人は外交官で日本復帰準備委員会日本政府代表でもあった高瀬侍郎氏であり、「日本の心、心のふるさと、青春の意気を取り戻すために」沖縄にも寮歌祭が必要であるという高瀬氏の言葉に各校同窓会が呼応し、本土復帰を目前に控えた一九七二年三月に第一回の沖縄寮歌祭が開催され、十一校、六十名が参加されています。沖縄寮歌振興会の初代会長の知念朝功氏は「古い息吹を持って新しい精神を吹き起こすことが沖縄寮歌祭の意義である」とのこと。

平成五年二月の佐賀新聞投書欄に「北大野球部が唐津に合宿に来るので練習相手を求む」との一通の投書を受け、初めて会った県内同窓生が唐津のグラウンドに応援に馳せ参じ、それを契機に北大同窓会佐賀県支部が立ち上がり、その勢いで九州寮歌祭をまねて立ち上げた「佐賀県青春寮歌祭」です。野球部の唐津での練習場への移動にバスの運転を買って出て、食事の手配などもされた野球部員の父、檜田達也氏が五月にお亡くなりになりました。奥様と二人で部員の世話をされ、その時、奥様の新聞投書が広がったからこそ、「佐賀県青春寮歌祭」が誕生したのです。一通の投書から広がった波紋が国内各地へ伝わることを願っています。

北大恵迪寮では、明治四十年以来、毎年、寮歌を作り続け、部歌や応援歌なども含めると百九十三曲にもなります。ギネスブックへ挑戦する意義は大いにあります。

令和七年十一月十五日北海道大学同窓会 佐賀県支部

第四代支部長 大宅公一郎

みなさんの参加をお待ちしております。